

平成三十年度 聖トミニコ学園中学校入学試験（第一回）

国語

◎ 次の注意事項じこうを読んでください。

- 1 試験開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題はぜんぶで8ページあります。
- 3 解答用紙は問題用紙にはさんであります。
- 4 解答用紙に受験番号、氏名を書いてください。
- 5 答えはすべて解答用紙に書いてください。
- 6 字数は、句読点くくつてんや「」をすべて一字に数えます。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一人の静かな時間は、人を育てる。

人と楽しくコミュニケーションをする中でももちろん人間性は①ヤシナわれるが、一人きりになって静かに自分と向き合う時間も、自己形成には必要だ。音楽を聴きながらボーっと一人でいる時間も楽しい。

しかし読書は、一定の精神の緊張を伴う。この適度の緊張感が充実感を生む。読書は、一人のようでも一人ではない。A本を書いている人との二人の時間である。著者は目の前にいるわけではないので、必要以上のプレッシャーはない。しかし、深く静かに語りかけてくる。優れた人の選抜された言葉を、自分ひとりで味わう時間。この時間に育つものは、②ハカリ知れない。読書好きの人はこの一人で読書する時間の③ユタかさを知っている。

インターネットの隆盛に伴って、すべてを情報として見る見方がいっそう進むであろう。素早く自分に必要な情報を切り取り、総合する力は、これからの社会には不可欠な力である。1、何かに使うために断片的な情報を処理し総合するというだけでは、B人間性は十分には培われ得ない。

人間の総合的な成長は、優れた人間との対話を通じて育まれる。身の回りに優れた人がいるとは限らない。しかし、本ならば、現在生きていない人でも、優れた人との話を聞くことができる。優れた人との出会いが、④向上心を刺激し、人間性を高める。

読書力さえあれば、あらゆる⑤ブナヤの優れた人の話を落ち着いて聞くことができる。実際に面と向かって話を聞く場合よりも、集

中力が必要だ。言葉の理解がすべてになるので、緊張感を保たなければ読書は続けられない。自分から積極的に意味を理解しようとする姿勢がなければ、読書にはならない。読書の習慣は、人に対して積極的に向かう構えを培うものだ。

「自分は本当に何をしたいのか」、「自分は向上しているのか」といった問いを自分自身に向けるのは、時に辛いことだ。自分自身が何者であるかを内側に向かって⑥追求していくだけでは、自己を培うことは難しい。Cタマネギの皮を剥くように、Xという気持ちに襲われることもある。読書の場合は、優れた相手との出会いがあり、細かな思考内容までが自分の内側に入ってくる。

自分自身の内側だけを見つめているのでは到底見えてこない世界に開かれるのが、読書のおもしろさだ。言葉の力は、それを発した人間と完全には切り離せない。情報だけではさしたる影響力を持たない場合でも、その言葉が誰か知っている人の言葉であれば、別の生きた意味を持つてくる。何でもない言葉でも注1シエイクスピアのセリフだと聞けば、とたんにすごみを増してくる。

誰のものともわからない言葉よりも、本という形で著者がまとめた考えを⑦述べてくれている言葉の方が、深く心に入ってきてやすい。一人の著者の考え方に慣れて、D次々に同じ著者の著作を読むのも、ある時期の読書としては効果的だ。そのことで読書が人との対話の時間になりうるのだということを知るようになる。

一日のうちで、自分と向き合う時間が何もないという過ごし方もできる。テレビを見ている時間が、典型的にEそれだ。テレビの娯楽番組を見ていけば、自分に向き合う必要もないし、テレビはそのような隙も与えない。自分と向き合うことを主題としたテレビ番組は

多くない。テレビは、自分の外側の問題にキョウミを喚起させる力はあるが、自分自身と向き合う時間はつくりにくい媒体だ。

テレビの時間は、テレビをつくる側が管理している。どのようなテンポでどんな情報を組み合わせれば視聴者が退屈しないのかを計算しながら時間の流れをつくっている。読書の場合は、読書の速度を決めるのは、主に読者の方だ。途中で休んでもいいし、速いスピードで読みつづけてもいい。読書の時間は、読者の側がFコントロールしているのである。

本のおもしろさは、一人の著者がまとまった考えを述べているにもかかわらず、言葉がその著者の身体からは一度切り離されているところにある。2 吉田兼好の『徒然草』を読む。兼好の身体はとうにこの世にはない。しかし、言葉は残っている。兼好の見事な理論と表現は、何百年の時を超えて、感情のひだをも伝えるようにこちらの胸に迫ってくる。

外国の著者の場合は、いっそうその感が強い。私はゲーテが好きで、ゲーテを自分のおじさんのようにも感じている。しかし、ゲーテと私は時も場所も離れたカンケイにある。⑨ ⑩ Yに本を読まなければ、向こうからは来てはくれない。タズねていって話を聴く。そうしたゲーテの家の「門を叩く」という構えがなければ、出会いが起きない。

時と場所が離れた人間と出会うということ、ふだんのコミュニケーションとは違う楽しい緊張感を味わわせてくれる。

(齋藤孝『読書力』)

注1 シェイクスピア——イギリスの劇作家・詩人。

2 吉田兼好——鎌倉時代末期の歌人。

3 ゲーテ——ドイツの作家。

問一 線①「ヤシナ(われる)」、②「ハカ(り)」、③「ユタ(かさ)」、④「向上」、⑤「ブンヤ」、⑥「追求」、⑦「述(べて)」、⑧「キョウミ」、⑨「カンケイ」、⑩「タズ(ねて)」のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 1、2 に入れる最も適当な言葉を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア たとえば
- イ なぜなら
- ウ ところで
- エ しかし

問三 線A「本を書いている人との二人の時間」とは、どのような時間ですか。それを説明している一文を本文から30字以内でぬき出し、最初と最後の3字を答えなさい。

問四 線B「人間性は十分には培われ得ない」とありますが、人間性を高める上で重要なのはどういうことだと筆者は考えていますか。「〜こと。」につながるように、10字以内で答えなさい。

問五 — 線C「タマネギの皮を剥くように」の「ように」について、これと同じ意味で「ように」が使われている文を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 明日までには部屋をかたづけしておくように、と母が言った。
- イ 弟はけがをしているように見えたが、なにか知っているか。
- ウ 姉はバレエの発表会で、まるで白鳥のように美しく踊った。
- エ たとえば私の父のようにきびしい人は、めったにいないよ。

問六 Xに入る最も適当な言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ゆっくりといてねいに剥いていこう
- イ いくら剥いていっても何もなかった
- ウ 涙なくしてはとも剥けそうにない
- エ いっそのこと乱暴に剥いてしまおう

問七 — 線D「次々に同じ著者の著作を読むのも、ある時期の読書としては効果的だ」とありますが、それはなぜですか。本文の言葉を使って30字以内で答えなさい。

問八 — 線E「それ」が指している内容を本文から20字以上25字以内でぬき出し、最初と最後の3字を答えなさい。

問九 — 線F「コントロール」と同じ意味で使われている言葉を本文から探し、漢字2字で答えなさい。

問十 Yに入る最も適当な言葉を本文から探し、漢字3字で答えなさい。

問十一 本文の内容に合う説明として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自身の成長のためには、読書だけをしていればよく、テレビを見ることや音楽を聴くことは一切必要ない。
- イ 人間の成長には、自分に必要な情報を素早く切り取って処理したり総合したりする力があれば十分である。
- ウ 読書することのすばらしさは、昔の人や外国の人との対話を通して自己の形成を可能にしている点にある。
- エ ゲーテと吉田兼好の本ならば、ゲーテは外国人なので、ゲーテの著作を読んだ方がより自分のためになる。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《二こまでのあらすじ》小学六年生の大介は、隣の家に住む北海という老人と旅をする中で、包丁研ぎの仕事をしている鍬木と出会う。大介は、身を守るために、いつも小さなナイフをジーンズのポケットに入れて持ち歩いており、そのナイフを研いでほしいと鍬木に頼む。しかし、鍬木はそれには答えず、自分が最初に弟子入りした日本刀研ぎの師匠、永谷のもとへ大介達を案内した。

「研ぎあがったものはありますか？」

鍬木が訊くと、永谷は「ある」と答えた。

「この子に見せてやってもらえませんか？」

永谷の視線が大介に注がれた。大介は右手を握りしめながら鍬木を見て、流れるように北海に目を移した。北海も大介を見下ろしていた。

北海は大介を促すように首肯した。

「こちらへ来なさい」

永谷は道具類をきれいに片づけ、なにも言わずに①ドクトクな臭いの立ちこめる作業場を出た。戸は閉じていかなかった。ついて来いという意味らしかった。北海の左手が大介の背の真ん中を押した。大介、北海、鍬木の順番で永谷の後に続いた。鍬木は作業場の戸を静かにしっかりと閉めた。

母屋の和室に通され、永谷に言われるがまま座布団の上に座る。

A 大介はおのずと正座になった。見ると、北海と鍬木もそうして

いた。永谷の妻らしき品の良い老女が、四人にガラスの器に入った麦茶を出してくれた。

永谷は一振りの日本刀を持ってきて、黒い漆が塗られた鞘に収められたそれを、1 両腕を広げるように三人の前で抜いた。

刀はフェリーの甲板から見た海のように照っていた。刃の部分には青味がかかった波の2 文様があり、緩く適度な弧を描いて、切っ先は見つめていると、2 眉間がびりびりするほどに尖っていた。

ユーラシア大陸だと大介は思った。右手の中の日本列島程度のナイフとは3 比べ物にならない。圧倒的で威圧感に満ち満ちている。

江戸時代の刀だと、永谷は教えてくれた。

太腿の上で右手をぎゅっとして、大介は輝きに3 目を凝らしたままで思わず訊いた。

「この刀は、誰かを殺したことがありますか？」

「これが？」

「はい」

「ない」

永谷は即答した。大介は拍子抜けしてしまった。戦国時代ほどすぐくはなくとも、江戸時代なら4 幕末にいろいろあったはずだ。

なのに、あっさりないと言われて、大介の肩はがっかりして少し落ちた。

「なんだ。せっかく強そうな刀なのに」

そのとき、B 隣に座った北海が、ふつと鼻で笑った。

永谷は 4 扉を閉じるように刀を鞘に収めた。

高台を街の方面へ下る道中、運転席の鍬木は静かに話した。

永谷のもとを去ったのは、恐ろしくなったからだ。師匠が研ぎ終わった刃が、あんまりきれいでね。自分も持ちたくなかった」

当時、永谷の家に寝起きしていた鑄木は、夜にこつそりとそれを鞘から抜いた。腕に来る重みと見事な反りを持つ銀色は、今でもはつきり覚えていると、彼は言った。

「そうして、怖くなった。この刀を持てば、自分の心一つですぐに誰かを殺せてしまうとわかった。そのころ誰かを恨んでいたわけではなかったが、先は保障がない。生きているうちに嫌な思いをするとはいつばいあるだろう。そんな相手ができたとき、自分の近くに刀があったらと思うと、たまらなくなつたんだ。心の中の恐怖を永谷師匠に包み隠さず打ち明けたら、師匠は別の刃物研ぎを紹介してくれた。包丁とかの研ぎ師をね。無論包丁にも恐ろしさはある。けれど、やはり刀はね。C 違いすぎるんだ」

「……Xと日本列島みたいに？」
大介のたとえに、鑄木は微笑した。「そうだね。それに包丁には生活の匂いがあるからね」

雨雲が天に広がりつつある。遠雷の音を大介は聞いた。まだ日暮れの時間でもないのに、鑄木はヘッドライトをつけた。

助手席の大介は、まだ握つたままだった右手をゆっくり開いた。手のひらに小さなナイフは貼りつくようであった。

「それを研いでほしいと大介くんは言ったね」

「うん」

「君には嫌な人がいるのかい？」

薄暗さの中で臍脂色つぼくなったボディに、義春の顔が一瞬映

つた気がした。

後部座席で北海が姿勢を変えたようだ。

D 大介くんはその人と心の中で戦争をしているようなものなのかな」

「戦争？」

あのズボンとパンツを脱がされた一件以来、大介は⑤ケハイを消し、義春から遠ざかるよう腐心し続けて、この夏休みを迎えた。だから、お互い表立ってやりあつてはいない。けれども、もし教科書に鬼畜義春と書いてあつたり、先生が授業でそう言えば、そのとおりだ、正しいと、自分も絶対に⑥ドウチヨウするだろう。

そうだ、戦争をしている。大介は義春を敵だと思つて憎んでいる。義春も大介を味方と見てはいないから、いじめたのだ。⑦イジワルをしてもいい相手が味方なわけではない。

「ナイフはね、研ぎすぎてもいけない。君は二回研いでほしいと言つたけれど、そんなには必要ない。研磨はすればするほど、刃は少しずつ薄くなつてしまふ」

「そうなの？」

だったら、もっと丈夫で大きいナイフなら良いのか。せめて、オーストラリア大陸くらいに。しかしそんな大介の考えを、鑄木は見透かしていた。

「仮にそのナイフがもっと大きくて、おじさんがギラギラに鋭く研ぎあげたとして、それを持つてどうする？ もし誰も咎めないとしたら、その人に向けるかい？ 戦争は敵をやつつけるのなら、怒られない」

もちろんだった。義春に刃を突きつけ、脅し、自分を嘲つたこ

とを悔い改め、許してほしいと懇願させたくて、ブレードを研いで
もらおうと思いついたのだ。

「……だってそいつ、僕にひどいことをしたから」

「大介くんは、弱いんだね」

鏑木がそう「Y」した。大介はハンドルを握る鏑木の顔をきつ
く見た。

反対に後ろからは息を抜くような小さな笑い声が出た。

「ナイフをいつも持っているのも、ナイフをもっと尖らせたがるの
も、大介くん自身が弱いせいだよ」

「なんで？」

「だって、君自身が本当に強かったら、そんなもの必要ないじゃな
いか」

ますます厚くなった雲の中が、光った。E 続いて腹に響く轟音
がどどろいた。

「弱い人ほど、強い武器は持つてはいけない。おじさんはそう思う」
すぐに頼って使ってしまうから。弱い人ほど魅入れやすいから。
強い武器はきれいだから。美しいから。

「美しく強いものを持つていいのは、本当はそんなものなんて必
要がないほど自分自身が強い人なんだ。持つにも資格がいるんだよ」

君が今よりもっと強くなったなら、ナイフを研いでもらおうとは思
わなくなるはずだと、鏑木は断言した。そうしたら、研いであげ
るとも。

「憎らしい相手に勝ちたかったら、大介くんがまず強くなるのが
いいね」

「でも僕はそんなに大きくないし……」

「大丈夫。喧嘩に勝つのが強さの条件じゃないよ」

「他の条件ってなに？」

⑧ チョクセツやり合って義春に一泡吹かせる以外に、どうすれば
強いことになるのか。大介は答えを求めたが、鏑木は目を細めた。

「答えは教えられるものじゃなくて、探して当てるものだよ。ちゃん
と君の目で見て、聞いて、考えて、自分の責任で辿り着いてこそ、
答えになるんだ」

フロントガラスに大きな雨粒が一滴弾けた。雨粒はすぐに⑨ 群れ
となり、パンを叩きながら包み込んだ。ワイパーがせわしなく動い
た。雷雨にヘッドライトが反射し、それは薄く白いカーテンとなっ
て、行く先に幾重にも重なった。

たぶん、小さなアーミーナイフを大事に持っていることに気づい
たから、鏑木は永谷のところへ連れて行ったのだ。二倍研いでほ
しいと訴えたから、今みたいな話をしたのだ。

大介は下唇を噛んだ。鏑木に弱いと決めつけられた。どうし
ても顔が下を向いた。

でも、鏑木の優しさはもう⑩ ウタガってはいなかった。F 彼は
優しいからこそ、言ってくれたのだ。ナイフの研ぎを断ったのだ。

ひよんなことで同行することになった札幌の小学六年生と、そうい
うふうに向き合おうと、彼自身が決めたのだ。戦争というものが結
果的に彼に教えた考え方で。

(乾ルカ『花が咲くとき』)

問一 ――線①「ドクトク」、②「文様」、③「比(べ)」、④「幕末」、

⑤「ケハイ」、⑥「ドウチョウ」、⑦「イジワル」、⑧「チョクセツ」、⑨「群(れ)」、⑩「ウタガ(つて)」のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問四 ――線C「違いすぎるんだ」とありますが、かぶらぎ 鏑木は、刀のよ

うな武器を持つにふさわしいのはどのような人だと考えていますか。本文から25字以上30字以内でぬき出し、最初と最後の3字を答えなさい。

問二 ――線A「大介はおのずと正座になった」とありますが、この時と似ている気持ちが表示されている表現を、~~~~~線1〜4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

問五 Xに入る言葉を本文から10字以内でぬき出しなさい。

問三 ――線B「隣に座った北海が、ふつと鼻で笑った」とありますが、ほっかい 北海はなぜ笑ったと考えられますか。最も適当なもの

問六 ――線D「大介くんはその人と心の中で戦争をしているようなものなのかな」とありますが、具体的にはどのようなことですか。「〜ということ。」につながるように、本文から17字でぬき出しなさい。

のを次から一つ選び、記号で答えなさい。

問七 Yに入る最も適当な言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 事実を教えてくださいるはずがないのに、ながたに 永谷の言葉を真に受けてがっかりする大介はじゆんすい 純粹すぎると思ったから。

イ たいして強くない刀に感心する大介を見て、自分はおもつと強い刀を作りおもしろ 驚かせることができると思ったから。

ウ 実際に人を殺した刀なのかどうかで強さを決めようとする大介の考え方は、まだまだ子どもだと思ったから。

ア 一部始終
イ 一石二鳥
ウ 一長一短
エ 一刀両断

エ 大人だったなら遠慮して聞けないようなことまでも突つ込んで質問する大介を見て、ほほえましく思ったから。

問八 — 線E「続いて腹に響く轟音がとどろいた」とありますが、

この部分は実際の雷の音以外にどのようなことを意味すると考えられますか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大介が、鏑木の言葉をかみしめて自分自身の心と向かい合っているということ。

イ 大介が、自分の苦しみをわかってくれない鏑木に怒りを感じているということ。

ウ 大介が、言いにくいことを正直に言ってくれた鏑木に感謝しているということ。

エ 大介が、鏑木に弱い人間だと決めつけられくやしさをこらえているということ。

問九 — 線F「彼は優しいからこそ、言ってくれたのだ」とありますが、大介は鏑木のどのような点を優しいと感じたのだと考えられますか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どんな理由があっても友達を嫌うなんて絶対にいけないことだと、迷っていた大介に教えてくれた点。

イ 師匠である永谷の家に連れて行って見事な刀を見せ、苦しんでいた大介に気晴らしをさせてくれた点。

ウ 本心に強い人間とはどのような人であるかについて、自分らしい方法を使って考えを伝えてくれた点。

エ ナイフを研ぎたくないとはつきり断らずに、大介を傷つけないように遠回しにそつと言ってくれた点。

問十
……線「他の条件ってなに？」とありますが、「他の条件」とはどのようなことだと思いますか。あなたの考えを60字以内で答えなさい。